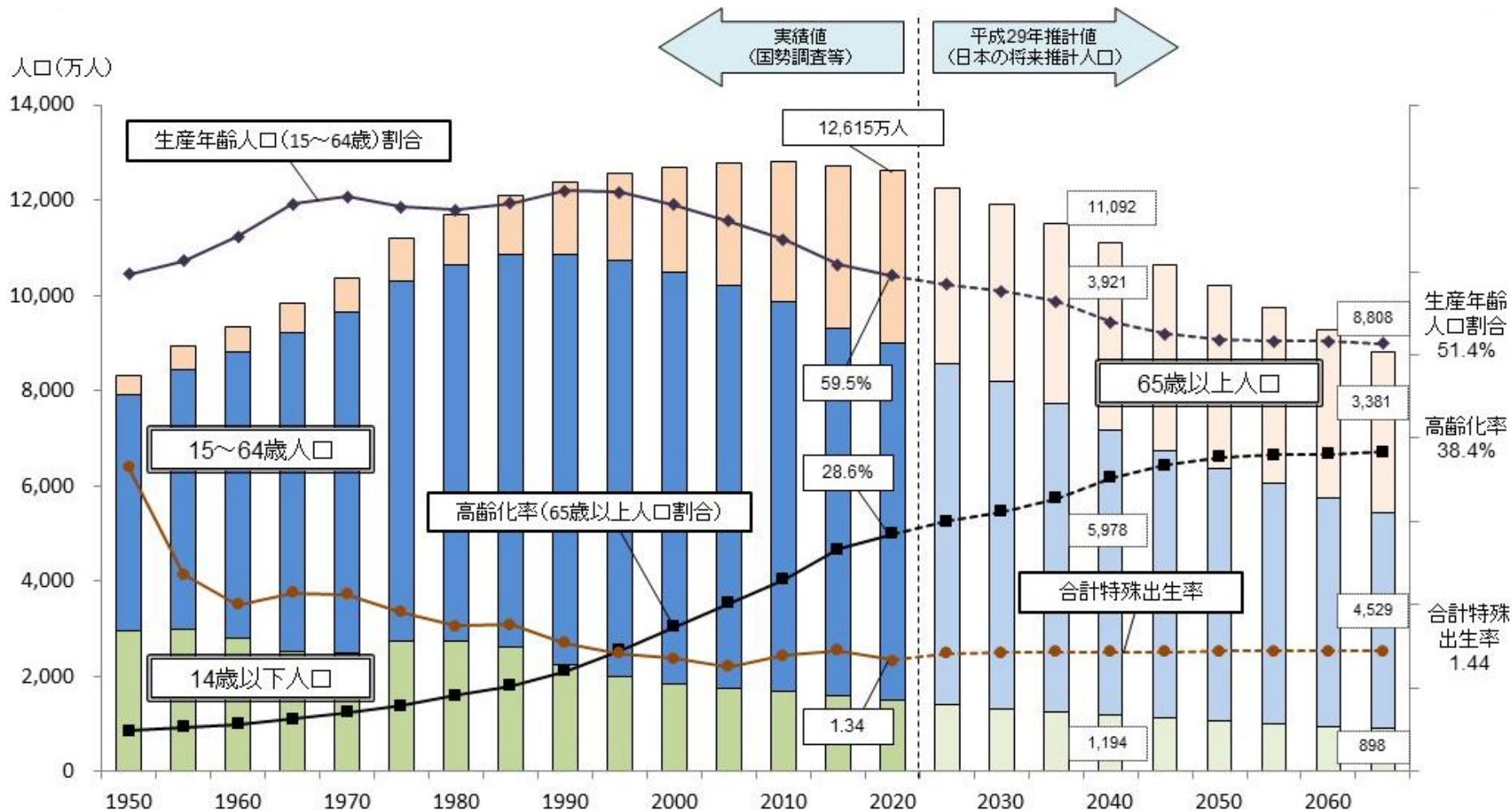


ICT施工の意義

国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課
岡本 由仁

日本の人口は減少傾向

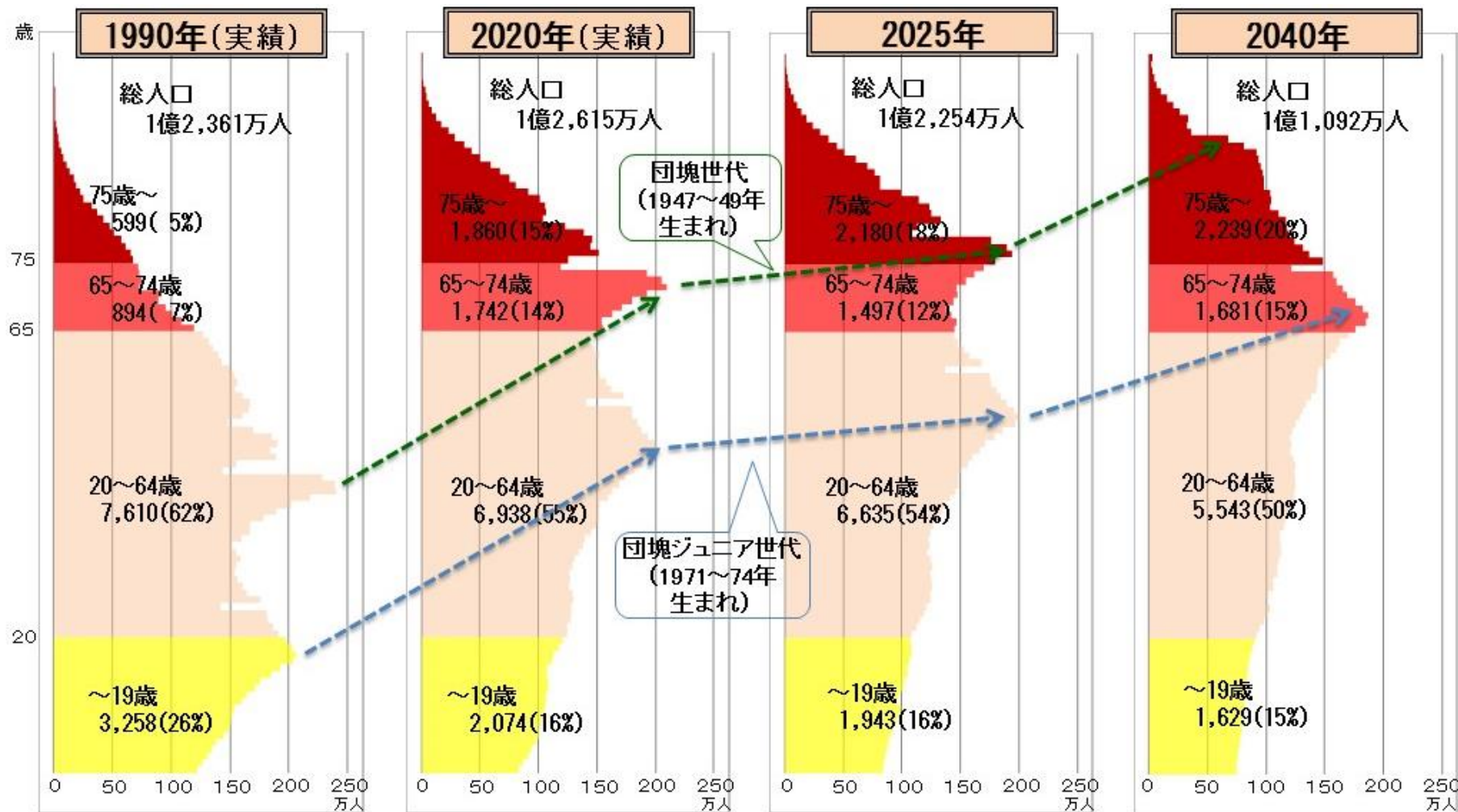
年次	2020	2040	2065
人口(万人)	12,615	11,092	8,808



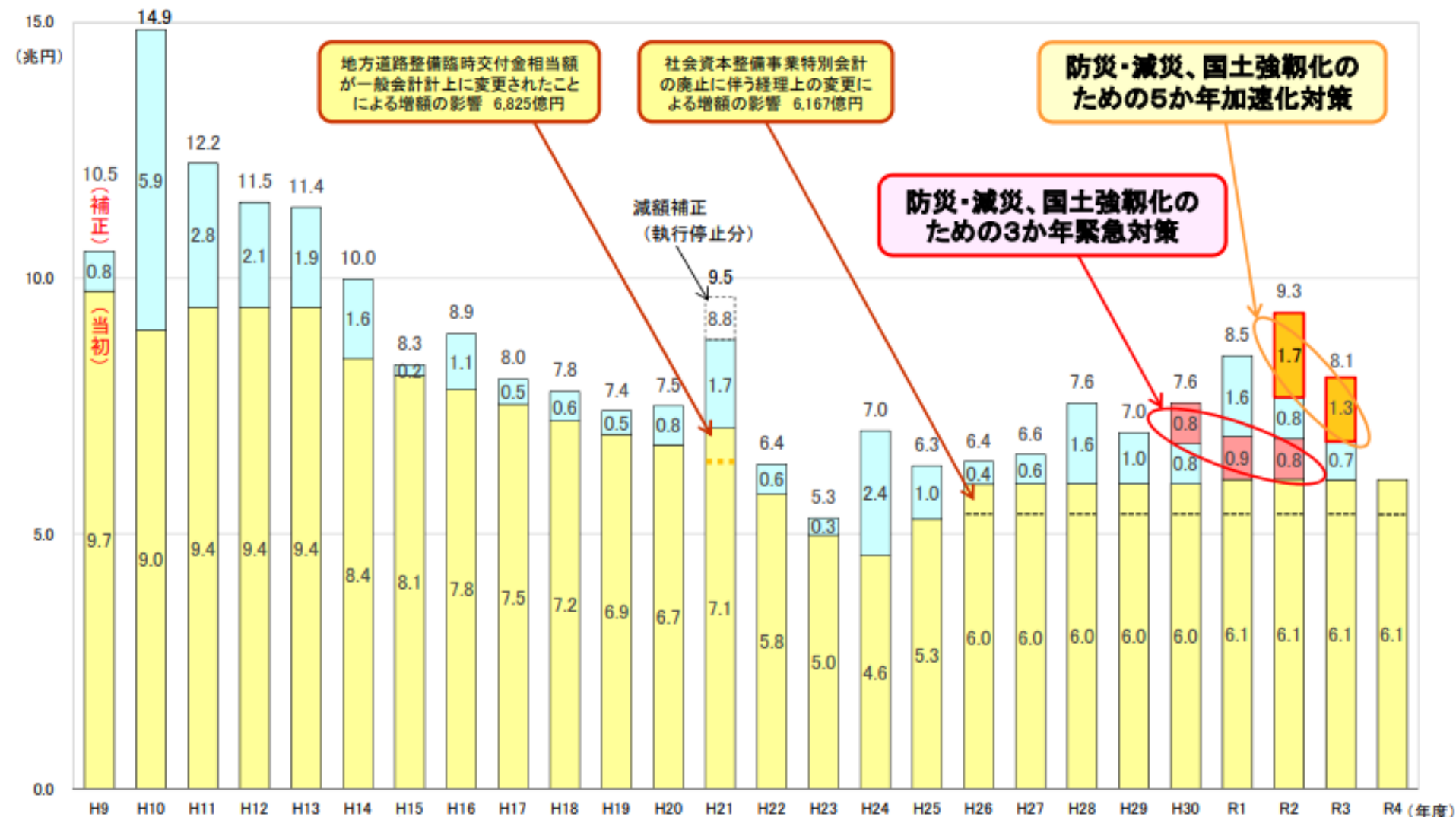
【出展】厚生労働省ホームページより https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html
 2020年までの人口は総務省「人口推計」(各年10月1日現在)等、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、
 2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

働き手の不足、人材の取り合い

年次	2015	2020	2025	2040
人口(万人)	7,610	6,938	6,635	5,543



建設業の仕事は減らない



今後も建設業が事業量を減らさずに持続
するためには

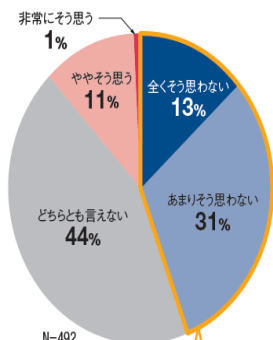
○働き手を確保すること

○生産性を向上すること

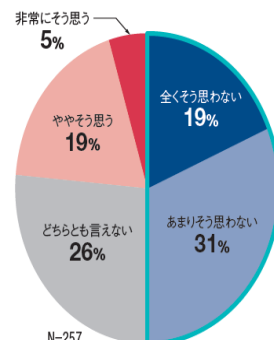
だけど、そのイメージは・・・

Q. 身近な若者や自分の子どもに、 建設業界への就職を勧めるか

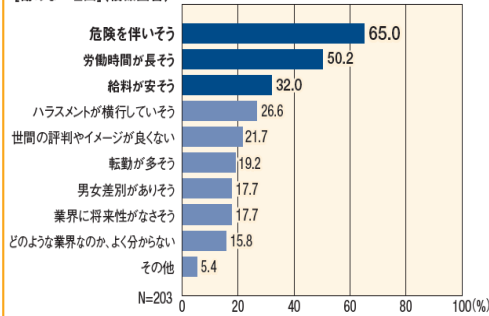
【一般の回答者】



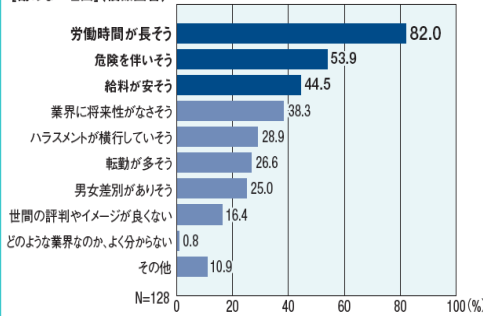
【建設業界の回答者】



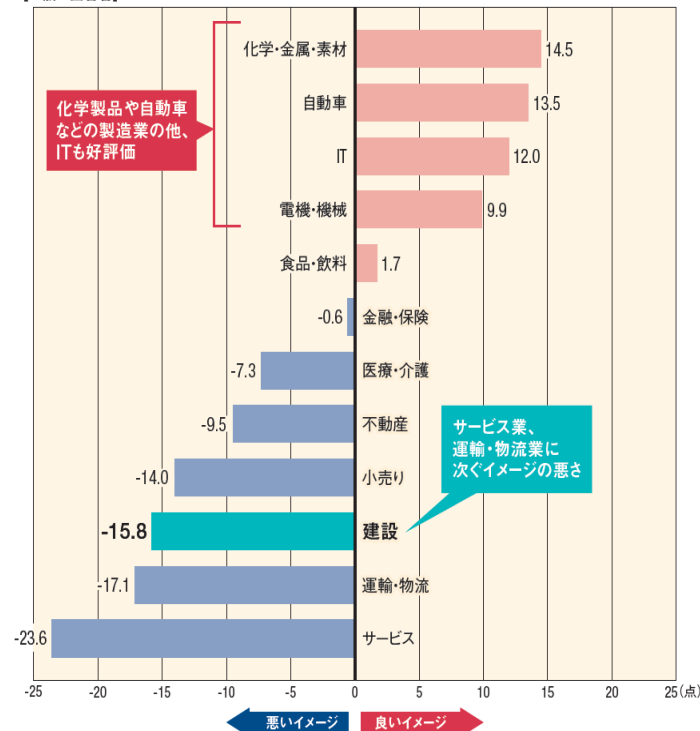
【勧めない理由】(複数回答)



【勧めない理由】(複数回答)



【一般の回答者】



業界ごとの労働環境のイメージを点数化した。得点は、それぞれの業界の労働環境に対するイメージを、「非常に良い」を100点、「やや良い」を50点、「どちらとも言えない」を0点、「やや悪い」を-50点、「非常に悪い」を-100点として、回答者の平均値を算出した。回答者数は492人

調査期間(2019年3月29日～4月10日)、回答者数(751人)

出典: 日経コンストラクション 2019年5月13日号

出典: 建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会提言～建設現場でいきいきと活躍するために～

<https://www.mlit.go.jp/tec/content/001368313.pdf>

国交省の取り組みは

- 建設業の新3K（給与・休暇・希望）を実現するため、国土交通省直轄工事において取組を実施。
- 中長期的な建設業の担い手を確保し、地域の安全・安心や経済を支える。

給与

- 「**労務費見積り尊重宣言**」
促進モデル工事★
 - 下請企業からの労務費見積りを尊重する企業を、総合評価や成績評定において優位に評価。
 - R2年度より全国でモデル工事を発注。
- **CCUS義務化モデル工事等**★
 - 新たに、一般土木において、CCUS活用の目標の達成状況に応じて成績評定を加減点するモデル工事を発注。
 - R3年度は、原則全ての一般土木工事（WTO対象工事）を対象に、CCUSモデル工事を実施

休暇

- **週休2日対象工事**★
 - 週休2日の確保状況に応じて、労務費等を補正するとともに、成績評定を加減点する「週休2日対象工事」を発注。
 - ＜これまでの実績＞
 - ✓ 165件(H28年度)
 - 6,853件(R2年度)
 - R3年度は原則全ての工事を「週休2日対象工事」として公告。
- **適正な工期設定指針**
 - 適正な工期を設定するための具体的・定量的な指針をR2.3に策定・公表。
 - ＜主な内容＞
 - ✓ 施工実日数のほか、準備・後片付け期間、休日、天候等を考慮
 - ✓ 余裕期間制度の原則活用
 - ✓ 受発注者間の工事工程の共有

希望

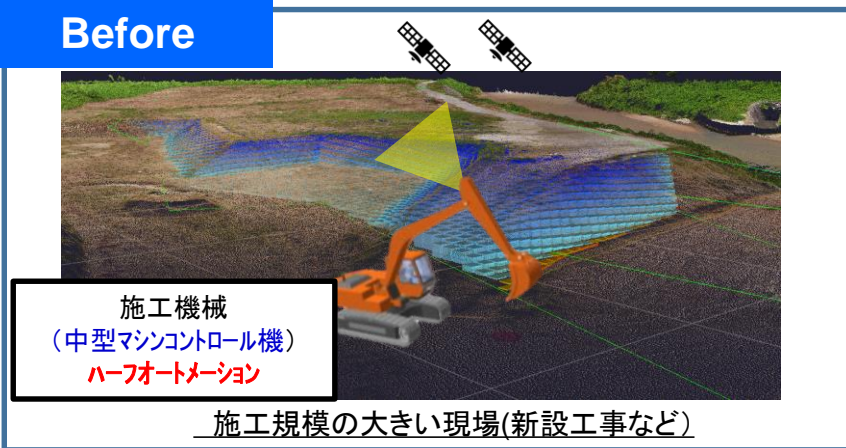
- **i-Constructionの推進**★
 - 建設現場の生産性を向上するため、必要経費の計上とともに総合評価や成績評定を加減点する「ICT施工」を発注。
 - ＜これまでの実績＞
 - ✓ 584件(H28年度)
 - 2,396件(R2年度)
 - その他、遠隔臨場による監督検査、BIM/CIM活用、規格の標準化、施工時期の平準化、新技術活用等を推進。
- **中長期的な発注見通しの公表**
 - 改正品確法を踏まえ、R2年度より中長期的な工事発注見通しを作成・公表。
- **誇り・魅力・やりがいの醸成**
 - 建設業のリブランディングに向けた提言をR2.1にとりまとめ。

★総合評価や成績評定におけるインセンティブ等によって取組を推進

小規模現場でのICT施工

【小規模な建設現場に対応したICT施工】

Before

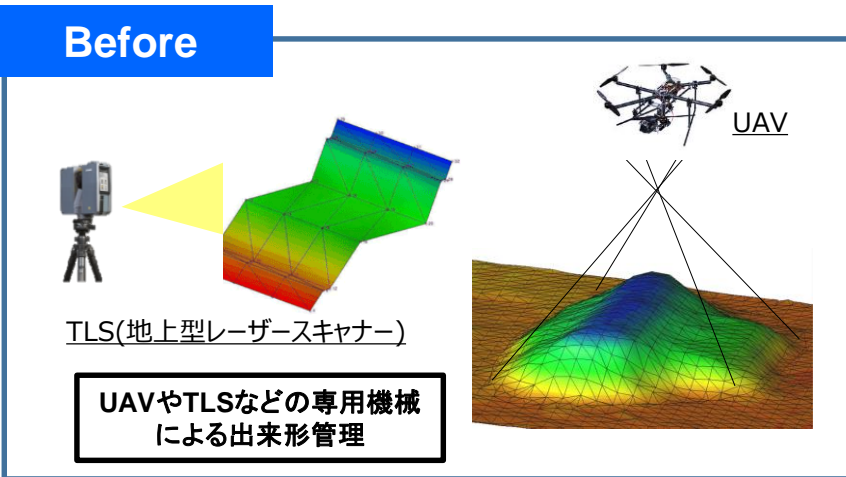


After



【スマホなどの汎用モバイル機器を活用した出来形管理のデジタル化】

Before



After



研究開発技術

(イメージ)



(出典:ドコモオンラインショップ)

- 消費者ニーズを踏まえた
新商品を開発するための技術
(消費者のための技術、
会社の競争力のための技術)

生産技術

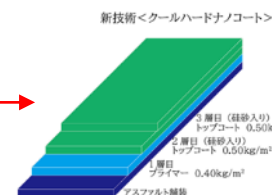
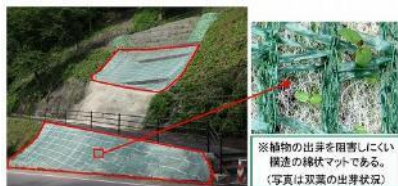
(イメージ)



- 個々の会社の利益確保のため
の技術
(会社が適正な利益を確保する
ための技術、TQC活動など)

研究開発技術

(イメージ)



- 公共・発注者のための技術
(公共事業を実現する技術、公共ニーズに応える技術、会社の競争力のための技術)

生産技術

(イメージ)



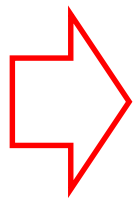
- 個々の会社の利益確保のための技術
(会社の適正な利益を確保するための技術)

〔(i-Construction)、リーンマネジメント〕

公共工事は、基本的に

品質の確保
安全の確保
法令順守

以外は自由にできる。



施工方法、施工機械、施工管理などは、
各社で、工夫や改善ができる。

i-Construction

～建設現場の生産性革命～

平成28年4月

i-Construction 委員会

7. i-Construction の目指すべきもの

i-Construction の目標は、生産性を向上させることで、企業の経営環境を改善し、建設現場で働く方々の賃金水準の向上を図るとともに、安定した休暇の取得や安全な建設現場を実現することを目指している。

建設現場の生産性革命は働き方革命でもある。

i-Construction に取り組むことで、建設現場がどのように変わり、それにより、建設現場で働く方々の処遇がどのように変わって行くのか明らかにし、関係者が共有することが重要である。

そのため、i-Construction の取組により、個々の建設現場が目標に向かって、どのように変わってきているかについて、随時、状況・効果を把握し、広く国民に公表し、情報共有すべきである。

ご清聴ありがとうございました



i-Construction